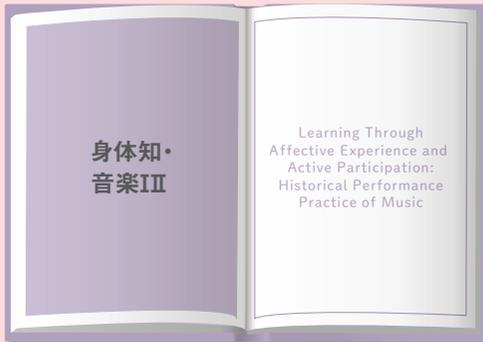
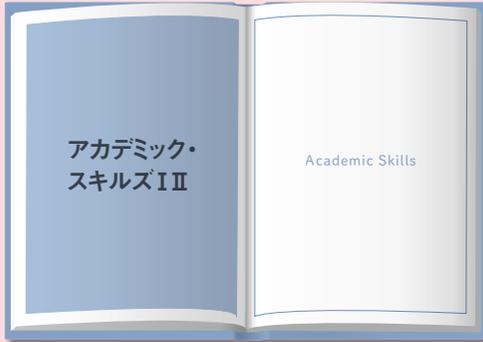




教養研究センター設置科目



いま、最先端の学問は「教養」かもしれない。

2026年度ガイダンス

4/2 13:00~
14:30

日吉キャンパス独立館 DB203

「教養」のすゝめ

大学は専門教育と教養教育の両輪で成り立ちます。

なぜなら、複雑な現実社会の中で専門的知識はそのまま役立つものではないからです。

専門的知識は応用しないと、現実には、はまりません。

応用するために必要なもの。

それが教養です。

さらに専門教育は限られた一分野に徹するから専門。

世の中を生きていくためには専門だけでは偏ります。

そこでも教養は不可欠なのです。

福澤諭吉先生も言っています。

「決して字を読むことのみを勧むるに非ず」

『学問のすゝめ』の中の言葉です。書齋で狭い学問をしているだけでは駄目だということです。

社会的・実践的に、からだを動かして学ぶことまで含めた、広い学問の必要性を述べた言葉です。

福澤先生による「教養のすゝめ」と解してよいでしょう。

教養研究センターは慶應義塾における教養教育の力強い担い手です。

様々な授業を設置して、学部のしきりにとらわれない、教養教育の実践に取り組んでいます。

ぜひ、ガイダンスで情報を得て、履修の参考にしていただければと思います。

Guidance

2026年度教養研究センター設置科目ガイダンス

日時 2026年4月2日(木) 13:00~14:30

場所 日吉キャンパス独立館 DB203

教養研究センターの設置科目や幅広い活動について紹介します。
教養研究センターの科目、活動に少しでも興味をもったら是非出席してください。

担当教員からのメッセージ

生命の教養学

The Liberal Arts of Life

文系・理系の垣根を越えて 「生命」をめぐって繰り広げられる白熱の議論

「学際的」という言葉を知っていますか？多様な専門領域を横断しながら、新たな知を生み出していく学問の方法を指す言葉です。ふだんは異なるフィールドの第一線で活躍している人文・社会・自然科学の専門家11名によるこのオムニバス講義で、「生命」をめぐる「学際的な知」の現場をぜひとも体感してください。

商学部准教授 石川学

日吉学

Hiyoshi-ology

ここでしか学べない、 過去から未来を読み解く体験型教育プログラム

日吉キャンパスには1200種以上の動植物が暮らす雑木林や、縄文、弥生、古墳時代からの遺跡、アジア太平洋戦争末期の帝国海軍の秘密基地、建築史上重要な建造物など、多くのお宝があります。多様な受講生と、多彩な教授陣と共に、これらのお宝に触れましょう。

経済学部教授 有川智己

エンターテインメントビジネス論

Entertainment Business Management

アニメビジネスについて理論と実務の双方から 学際的かつ国境横断的にアプローチします

20年に一度の転換期を迎えていると言われていた日本のアニメビジネスについて、研究者と実務家双方による理論と実務を往復した授業を通じて、そのクリエイション、プロデュース、テクノロジー、ファイナンス、国際化等の現状と展望を深掘りすることで、日本アニメの「次の10年」をどのように展望できるかを考えます。

経済学部准教授 三原龍太郎

アカデミック・スキルズII

Academic Skills

レポートと論文の違い プレゼンテーションの仕方を基本から学びます

論文の書き方、プレゼンテーションの仕方を徹底指導。減多にない授業です。大学の授業ではレポートを書く機会が増えます。3、4年生になると論文の執筆を求められることもあるでしょう。では、レポートと論文はどう違うのか。さらに内容を口頭で発表するときはどうするか。アカデミック・スキルズはそのスキルをみなさんに伝授します。

法学部教授 片山杜秀

身体知・音楽II

Learning Through Affective Experience and Active Participation: Historical Performance Practice of Music

歴史的音楽(器楽・声楽)を 当時の演奏習慣に基づき演奏していきます

音楽は、身体を介し表現され、歴史の中で常に、人間の知的な活動と連携してきました。この授業では、音楽を身体で表現することを通じて、歴史・文化の中の人間の生を体験し、芸術に秘められた人間の生を、文学・歴史・思想等、多角的視点から見つめ直すことを目的としています。

経済学部教授 石井明

ゲーム学

Game studies

ビデオゲームが提起する諸問題について アカデミックな立場から考察をおこないます

普段は遊びに過ぎないビデオゲームも、巨視的なスケールで見れば今日、多くの産業、文化、技術分野において中心的な位置を占め、また、さまざまな問題を提起しています。ビデオゲームの周辺で現在起こっていることを知り、ゲームに関する諸問題についてアカデミックな考察をしてみませんか？

経済学部教授 新島進

金融リテラシー入門

Introduction to Financial Literacy

就職活動の企業選定にも役立ち、働き方の 選択肢を広げるマネーリテラシーを身につけます。

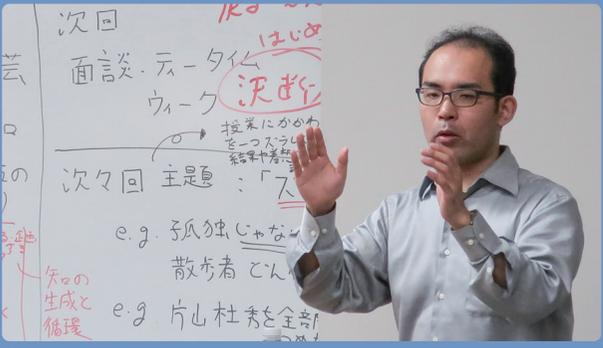
人生100年が多くの人にとって現実化しつつある昨今、知らないがために損をしていることも多い様々なマネーリテラシーにまつわる情報を知り、自身の興味に応じて自ら調べ動けるようにしましょう。マネーリテラシーはどのような生き方をしたいのか、という問いにも直結します。そのための手段として基礎となる金融知識・情報以外に、実際にどのような資産形成の手段があるかを総合的に学びます。

法学部教授 片山杜秀 医学部助教 寺沢和洋

敬称略。所属・職位は2026年1月現在

アカデミック・スキルズⅡ

協生の時代の知を築く



大学の授業では、自ら調べ、書き、発表する能力が求められます。レポートを書く。論文を書く。レポートや論文の内容について、プレゼンテーションする。学年が上がれば上がるほど、そういうことができるか否かが、評価の分かれ道になってゆきます。少人数の授業では特にそうです。

ところが大学では長いあいだ、どうすれば調べて書いて発表できるようになるかについて教えてきませんでした。大学の授業は、経済学でも政治学でも法学でも文学でも物理学でも化学でも、講座名にかなう専門的内容をきちんと教えます。けれどたとえば、学期末に提出の求められるレポートや論文の作り方のことになると、たいていは自助努力に任せられます。

もちろん、高校までの経験や大学に入ってからの見様見真似で、いきなり出来てしまう人はいます。しかし、かなり多くの学生が戸惑い躓いてしまうのもまた事実なのです。

そこで慶應義塾大学に生まれた授業が、教養研究センターの開講するアカデミック・スキルズです。この授業は、レポートや論文を執筆するときの調べ方、書き方、そして発表の仕方について、そのスキルを学ぶことを主眼とします。なるべく早いうちにそういう仕方を学ぶおくことは、どのような学問を専攻するにせよ、必ず役に立ちます。近年では多くの大学で同内容の授業が増えてきていますが、慶應のアカデミック・スキルズはこの道の老舗です。

といっても、調べ方、書き方、話し方に、絶対的に決まったスキルはありません。マニュアル本のようにはゆきません。最後は人それぞれです。とはいえ、多くの場合通用する、能率的で効果的なやり方というものはあるのです。そのことを少人数形式でじっくり学んでみませんか。

※授業の性質上、春学期・秋学期を通しての履修を推奨します。

授業の特長

学部共通科目・少人数制・複数教員制

さまざまな学部の学生が少人数で一緒に学びます。1クラスに専門分野の相異なる複数の教員がつかます。

コンペティションの開催と論文集の作成

授業のまとめとして、各クラスから優秀な論文とプレゼンターを選出し、コンペティション開催を予定しています。また、履修者の提出論文を掲載する論文集も作成されます。



累計20万部のベストセラー
待望の第4版
AI時代における大学生の「学びの書き方」が
これ1冊で身につく！
佐藤望(編著)・湯川武・横山千晶・近藤明彦
「アカデミック・スキルズ
AI時代の知的技法入門 第4版」
(慶應義塾大学出版会、2026)

授業紹介

論文作成とプレゼンテーションの仕方を系統立てて学んでゆきます。個人で完成し、内容についてのプレゼンテーションを行います。論文のテーマの選択については自主性が尊重されます。

2026年度 アカデミック・スキルズⅡ 講師紹介

クラス・学期・時限	担当教員
水曜クラス (春・秋)1限	小菅隼人(理工学部教授) 寺沢和洋(医学部助教) 諸橋英一(非常勤講師)
水曜クラス (春・秋)4限	御園敬介(商学部教授) 林秀光(法学部教授) 山口早苗(理工学部専任講師)
木曜クラス (春・秋)2限	若澤佑典(文学部准教授) 片山杜秀(法学部教授)

敬称略。所属・職位は2026年1月現在

シラバス(春学期)の基本イメージ例

(実際の授業は各担当教員の創意工夫に基づき行います)

●グループ論文を作成する場合

回	授業内容
1	履修者を選考します
2	グループ分けとみんなの自己紹介をします ミニ講義「問題意識の見つけ方」
3	小論文を書いてみよう ミニ講義「論文とは何か」
4	グループ論文のテーマについて議論しよう ミニ講義「グループ論文の作り方」
5	メディアセンターで資料の探し方を学ぼう
6	そろそろグループ論文のテーマを決めよう
7	グループ論文の章立てを考えよう ミニ講義「参考文献表の作り方」
8	各章の概要を決めよう ミニ講義「プレゼンテーションの仕方」
9	グループ論文の骨子をみんなにプレゼンテーションしよう
10~11	論文の作成と指導に集中します
12~13	グループ論文の深まった内容を改めてプレゼンテーションしよう
14	グループ論文を最終完成します

論文コンペティション入賞作 (過去の例より)

- 経済学部2年 岡倉天心の日光東照宮批判について 一天心の政治性に着目してー
- 文学部1年 トraumの社会学的考察 ー「領域交差」を通した脱構築の可能性ー

プレゼンテーション・コンペティション入賞作 (過去の例より)

- 法学部1年 「更生」の観点から見る、日本の刑事裁判と窃盗症患者 ー現在の日本で窃盗症患者は更生できるのかー
- 総合政策学部1年 プラットフォーム行政 ー公共交通と行政の新たな関係ー

学生の声(2022年度受講生)

「実学」としてのアカデミック・スキルズ。

みなさん、論文と聞いてどのようなものを思い浮かべますか。卒業する時に書くもの、そんなイメージでしょうか。しかし、アカデミック・スキルズでは論文を1、2年生のうちから執筆することができます。一方、学ぶことができるのは論文の書き方だけではなく、論文を書く中で「考える力」を身につけることができます。また、社会人、ひいては国際人としての振る舞い、あるいはコミュニケーション能力をも磨くことができます。論文の書き方というアカデミックな学びをしつつ、社会に出てから必要な言わば「実学」をも学べるアカデミック・スキルズ。自信を持っておすすめできる授業です。

文学部2年

専門分野を学ぶ前に、自らテーマを決めて論文を書くという経験が積めると聞き、受講を決めました。

通常の大学の授業では自分の書いたレポートや発表に対して丁寧なフィードバックを貰える機会は少ないのですが、アカデミック・スキルズでは教授の方々からの細かな指導を受けたり他の履修者と比較したりする貴重な機会があり、論文作成の基礎となる論理的な思考力や文献の使用法、学術的な発表の方法を学ぶことができました。また、意欲的な講師の方や仲間たちとの交流は楽しく、論文を書き終えた際の達成感はひとしおで、今後の自信にもつながったと思います。

理工学部2年

生命の教養学

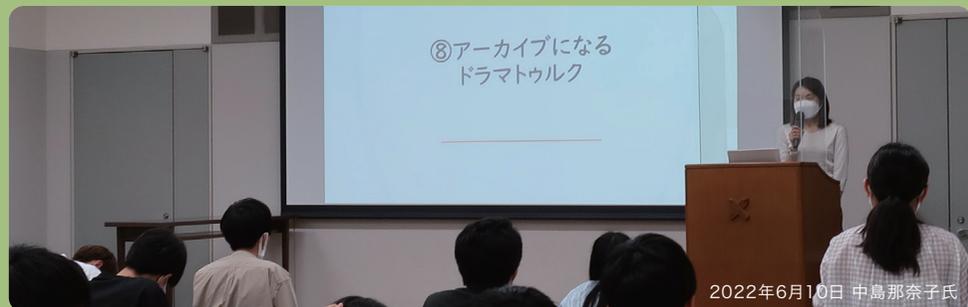
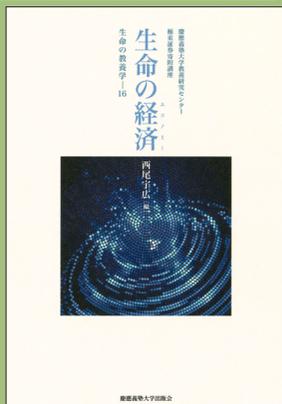
復讐・応酬



2023年7月14日 石川学氏

この授業は「生命とは何か」「生きるとはどういうことなのか」という問いから始まる知的探究への誘いです。「生命」については生物学をはじめ、主に自然科学に属する諸分野が「生命科学」の枠組みで研究を進めていますが、それだけではありません。哲学・文学・歴史学・文化人類学などの人文学、経済学や政治学といった社会科学もまた、それぞれ異なる角度から「生命」を問い続けているのです。もとより一面的には捉えがたいこのような対象にアプローチするうえで、必要なものとは何でしょうか。それは、特定の学問領域に偏ることなく広く思考の素材を追い求め、各領域の研究成果には十分な敬意を払いつつも、その雑多な素材を元手として、新たな知を創り出そうとする探求の姿勢にほかなりません。ときに「教養」とも呼ばれるそのような態度を涵養する場、それがこの「生命の教養学」なのです。

西尾宇広(編)「生命の経済 生命の教養学16」(慶應義塾大学出版会、2020)

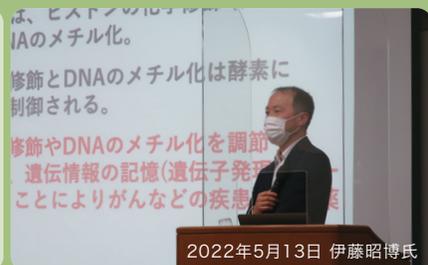


荒金直人(編)「組織としての生命 生命の教養学15」(慶應義塾大学出版会、2019)

授業の特長

多彩な分野を代表する講師たちによって
おこなわれるオムニバス授業

自然科学、社会科学、人文学など、多彩な分野のそれぞれ最先端で活躍している講師が週替わりで登壇し、濃厚な講義をおこないます。各講義では原則として1時間程度の講義のあと、自由な質疑の時間が設けられます。学期の最初と最後には、コーディネーターによるオリエンテーションと総括がおこなわれます。



2022年5月13日 伊藤昭博氏

授業紹介

「復讐」するのは人間だけ？

2026年度のテーマは「復讐・応酬」です。ハンムラビ法典の有名な「目には目を」が示すとおり、古代社会においては私的復讐が法的・宗教的な規制の対象となるほど一般的で、復讐心は人間の根源的な感情と言えます。現代の世相を見ても、人間は今なお復讐感情を制御するのはほど遠い状況ですが、とはいえ、復讐はただおぞましい振る舞いと見なされてきたわけではありません。文学や芸術、芸能の世界では、古今東西、復讐を題材とした物語が描かれ、人々の心を感動させてきました。その感動は、復讐の持つ、単純に利己的なものにとどまらないコミュニケーションとしての特質—たとえば、愛する者の無念を相手にぶつけることにあるような—に由来しているようにも思われます。

こうしてみると、あたかも「復讐」は人間に固有な振る舞いのようですが、そのこと自体を問いに付すこともできるでしょう。類人猿をはじめ、報復的な所作を取ることが報告されている種が存在し、同時に、そうした動物の行動に「復讐」という人間的な概念を当てはめることへの批判もあります。確かなのは、こうした視座から復讐とは何かを問うことは、人間と動物の境界を問うこと、あるいは人間と動物の通底を問うことにつながるということです。さらに、「復讐」の人間性をカッコに入れて、ある特定のアクションに対してやり返すこと、すなわち「応酬」という広い意味で捉えれば、昆虫や植物のレベル、微生物や細胞のレベル、ひいては物質のレベルの反応にまで適用できます。それらが呈す相互的／対他的なプロセスは、人間固有の「人間性」を相対化する内容を持つのでしょうか。こうした問題意識のもと、幅広い専門の視点から「復讐・応酬」に迫ります。予定されているのは、進化生物学、動物行動学、ケミカルバイオロジー、感染症学、神経心理学、AI研究、経済法・商法、近現代フランス史、ドイツ文学、中国文学などといった分野の専門家による講義です。



2024年5月10日 松本浩一氏

2026年度「生命の教養学」

- 戦後の日中関係のあゆみ —歴史問題と戦後処理をめぐって— 山口早苗 (慶應義塾大学理工学部 専任講師)
 - 正義としての復讐? —ドイツ文学から読む報復の歴史— 西尾宇広 (慶應義塾大学文学部 准教授)
 - 復讐の価値を心理学から考える 寺澤悠理 (慶應義塾大学文学部 准教授)
 - オスとメスの間の進化の応報 上村佳孝 (慶應義塾大学商学部 准教授)
 - 歴史に学ぶ感染症の復讐と応酬(仮) 南宮湖 (慶應義塾大学医学部感染症学教室 教授)
 - 「復讐収容所」をめぐる独仏の応酬 —第一次世界大戦期の戦争捕虜と国際法— 館葉月 (慶應義塾大学文学部 准教授)
 - 生物多様性保全のための規制と応酬 大沼あゆみ (慶應義塾大学経済学部 教授)
 - 「政策と法」の歴史からみる「復讐・応酬」 廣瀬翔太郎 (朝日大学法学部 講師)
 - AIは生命にどこまで近づきそして越えることができるのか? 栗原聡 (慶應義塾大学理工学部 教授)
 - 植物をとりまく物質の応酬 萩原伸也 (理化学研究所 環境資源科学研究センター チームディレクター)
 - 霊長類の社会から見た復讐と応酬の生物学的起源 香田啓貴 (東京大学大学院総合文化研究科 准教授)
- コーディネーター: 石川学 (慶應義塾大学商学部准教授)
敬称略。所属・職位は2026年1月現在。
※講師、タイトルは変更となる可能性があります。

過去の開催一覧

- 2024年度 ● 「死と再生」
- 2023年度 ● 「贈与」
- 2022年度 ● 「記憶」
- 2019年度 ● 「生命の経済」
- 2018年度 ● 「組織としての生命」

学生の声 (2023年度TA:Teaching Assistant)

さまざまな学問の目線から1つのテーマについて学び、考えることで興味のある分野について深められる一方、新たな分野にも触れることができます。

商学部2年

1年次に、「生命の教養学」と同様、教養研究センター設置科目である「アカデミック・スキルズ」を受講し、石川先生からの紹介で、本講義のTA (Teaching Assistant) をさせていただきました。「生命の教養学」のTAをさせていただいた経験から、自分自身も学びと成長の機会を得ることができました。私は本講義を、「自分の興味や知識の幅を広げることができ、新しいことを発見できるきっかけの場」だと思います。さまざまな学問の目線から1つのテーマについて学び、考えることで興味のある分野について深められる一方、新たな分野にも触れることができます。また、さまざまな分野に興味を持った学生が集まるため、多様な考え方やアイデアをディスカッションを通して共有しあうことができます。私も1年次に履修しておけばよかったと少し後悔しています。1回1回の講義の内容が濃く、学びになるこの講義を、ぜひ履修し、大学での成長、新たな自分の発見の場にしてほしいと思います。

身体知・音楽ⅠⅡ

—古楽器を通じた歴史的音楽実践—
—合唱音楽を通じた歴史的音楽実践—



写真提供：(公財)横浜市芸術文化振興財団

音楽を通じて歴史・文化の中の人間の生を体験し、芸術に秘められた人間の生を、文学・歴史・思想等、多角的視点から理論的に見つめ直します。音楽演奏の実践体験によって、身体を通じた歴史・文化・言語の総合的な学習を行います。

器楽・声楽それぞれ歴史的音楽作品の演奏実践を行い、耳と感性知識、身体を結びつけ、それによって身体を媒体として継承される歴史・文化・言語の連関を実際の体験によって学びます。学期末に公開演奏会を行い、学内・地域に開かれたかたちで成果を披露します。

授業の特長

器楽アンサンブルと、声楽アンサンブルの2つの部門に分かれて行われます。

器楽アンサンブル部門

バロック・ヴァイオリンやチェンバロなど、一般的に古楽器と呼ばれているバロック時代の楽器を用いて、17世紀および18世紀の西洋音楽を実践的に学んでいくというのがこの授業の最大の特徴です。

声楽アンサンブル部門

合唱音楽の原点とも言える、ルネッサンスおよびバロック期の合唱音楽を主に取り上げます。これを実践的に探究してだけでなく、学問的な観点からも合唱音楽の本質を考察していきます。音楽の発展の中で、人の声が担った役割は大きく、音楽の歴史に与えた影響は計り知れないところがあることを確認していきます。



授業紹介

器楽アンサンブル部門

バロック・ヴァイオリンやチェンバロの他に、バロック・ヴィオラ、バロック・チェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、バロック・オーボエ、リコーダー、フラウト・トラヴェルソ、バロック・ファゴットなどの、バロック時代に使われていた楽器を用いて、当時書かれた、トリオソナタなどの室内楽編成のための作品と、より大きめのアンサンブルであるバロック・オーケストラ(20人程度)のために書かれた音楽作品を取り上げ、バロック時代の音楽作品について深く理解していきます。実践を通じ、17・18世紀の作曲家たちが何を演奏者に、そして聴衆に求めていたのかということや、17・18世紀の器楽作品には、どのような音楽的メッセージが込められているのかということなどを、現代ではなく、当時使われていた楽器を用いることで探求していきます。なお、使用ピッチはa=415となります。一年を通じて、2回ほどの成果発表演奏会を、協生館藤原洋記念ホールで行う予定です。

声楽アンサンブル部門

音を記号化し記録するという行為、つまり楽譜の発展は、多声音楽と共に歩んできたと言っても過言ではありません。そのくらい、合唱音楽が音楽の歴史の中で重要な役割を担っていました。ルネッサンスの時代が終わるまでには、4声、5声、6声またはそれ以上の声部のために、複雑な作曲技法が用いられて数多くの声楽作品が書かれました。そのような時代では、芸術性を高めることが神への距離を縮めるとも考えられていました。結果、現代までに残されているルネッサンス期の合唱曲の大半は、宗教音楽の分野に属する作品です。しかしながら、バロックの時代の幕明け頃(1600年前後)には、世俗的な音楽にも宗教作品で培われた、もしくは新たに生まれた作曲技法が用いられるようになっていき、声のための音楽の奥行きが広がっていきます。このような状況を合唱音楽を実践的に取り組むことを通じて、学んでいきます。

慶應義塾大学古楽アカデミー
オーケストラ・小合唱
ヴェルニゲローデ放送合唱団青年部
再来日記念合同演奏会

2025年10月12日(日)
18時開演(17時半開場) 入場無料・事前申込不要

出 演：慶應義塾大学・古楽アカデミー・オーケストラ(ビブリオ楽器使用)・小合唱
ヴェルニゲローデ放送合唱団青年部
ロベルト・ゲーストル/石井 明(指揮)
神戸佑実子(ソプラノ)

Program
ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル (1685-1759)
(メサイア) 第1部より合唱曲 ほか

場 所：藤原洋記念ホール(慶應義塾大学日吉キャンパス協生館内)
日吉駅(東急東横線・日黒線・新横浜線)横浜駅地下鉄グリーンライン 徒歩1分
主 催：慶應義塾大学教養研究センター／慶應義塾大学日吉音楽学研究室
問合せ：慶應義塾大学日吉音楽学研究室 045-566-1399 <http://www.musicology.hc.keio.ac.jp/>

2025年度は、ドイツから再来日した
ヴェルニゲローデ放送合唱団青年部と合同演奏会を開催しました。

この授業は、日吉音楽学研究室と
連携して行っています。
詳しくはホームページ
<http://www.musicology.hc.keio.ac.jp/>を
ご覧ください。



学生の声(2022年度受講生)

古楽器の演奏を通して音楽観が広がる。

私は小学生でバイオリン、中学生ではフルートを演奏し、高校時代は、ティン・ホイッスルというアイルランド発祥の縦笛を演奏していました。石井先生の「身体知・音楽」は4年生になって履修。初めてバロック・バイオリンに触れたとき、すぐに「違い」を感じ、演奏してみると古楽ならではの奏法や拍の取り方などが新鮮でした。自分自身の音楽観が広がり、今まで以上に演奏することや音楽を鑑賞することを楽しめるようになったと感じています。

文学部4年

難しさの中にやりがいを感じる。

この授業は自分の担当楽器以外にもさまざまな珍しい古楽器と接することができ、また幅広い年齢層の方々と演奏する機会でもあり毎回楽しみです。現在のオーボエは金属製のキーを押さえて演奏しますが、バロック・オーボエはリコーダーと同じく自分の指でしっかりと穴を押さえずには良い音は出ません。それが難しさでもあり、演奏しがいを感じる点でもあります。この授業を通して音楽を一生の趣味にする気持ちがますます強くなりました。

薬学部4年

慶應義塾発行「塾」2022 SUMMER(No.315)より引用

日吉学

窮理編



日吉キャンパスには広大かつ豊かな自然や歴史環境があります。縄文、弥生、古墳時代の遺跡や1200種を超える生き物が生息する森、アジア太平洋戦争末期の帝国海軍の秘密基地や建築史上重要な建造物。福澤先生は『学問のすゝめ』で、「事物の観察」が学問の第一歩と語っています。「日吉学」では観察とフィールドワークを介して体感し、単なる知識の蓄積にとどまらず、生きた知へ発展させることをめざしています。これからの社会には、文系理系にとらわれず多面的視点から生み出される創造的な発想が求められるでしょう。つい見過ごしがちな身近なことから現在の我々を取り巻く問題とのつながりに触れることで、広い視野と深い洞察力の重要性に気づき、グループで課題に取り組むことで、問題の発見・解決における個人の主体性と他者との対話・協働の大切さを学びます。



コーエーの襟川陽一会長から盾を授与された受賞者

授業の特長

慶應義塾唯一の授業 慶應のお宝に触れ学びます。

多彩な講師陣と幅広い受講者が魅力

対象は慶應義塾に在籍する高校生(オブザーバー)から大学院生まで。年齢の異なる参加者が混在するグループワークで、多様な発想からの刺激、異なる意見の調整方法を学ぶことができます。

多様な「熱い」学びのかたち

講義とフィールドワーク・体験と討論。論文完成を目指して幅広い分野をカバーする大勢の教員が指導します。

論文を書き上げ合格すると日吉学修了証が授与されます。



授業紹介

こんな授業があったのか！
キャンパスを通して自分たちの過去・現在・未来を考える。

みなさんは、ふだん何気なく過ごしている日吉キャンパスがどんなところか、改めて考えてみたことはありませんか。ちょっと気にして目を向けると、いろいろな発見があるはずです。キャンパスを散歩してみてください。意外と複雑な地形のうえにあることに気づくと思います。そこにはさまざまな動植物も生息しています。また、キャンパスには、台地を構成する地層が見えているところや、弥生時代の巨大な集落の痕跡など、地中の様子を垣間見ることのできる場がそこかしこに存在するほか、地下深くにはアジア太平洋戦争期の巨大な地下壕が構築されています。授業を受けている校舎だって、それぞれの特徴に目を向ければ、そこからキャンパスの歩みが見えてきます。2026年度の日吉学は「窮理編」です。皆さんがまだ気づいていない、キャンパスのさまざまな特徴を見つけ出し、その成り立ちを探ることを通して、多様な視点から日吉の過去・現在・未来について語り合いたいと思います。前半の7回で課題発見のための学習とフィールドワークを行い、後半7回で各自が発見した課題を解決するための資料・情報の収集や整理、理解を深めるための議論を行います。最後に各自、プレゼンテーション等を行い、それを踏まえて論文にまとめて提出してもらいます。

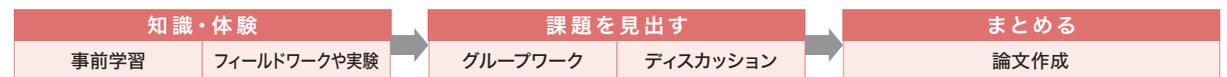


2026年度 講師紹介

- アートル・ジョン (経済学部准教授)
竪穴式住居を建てることのできる考古学者にして、日吉をこよなく愛する文化人類学者。
- 都倉武之 (福澤研究センター教授)
慶應義塾のことなら何でもお尋ねあれ、即座に！詳しく！解説可能な歴史学者。
- 有川智己 (経済学部教授)
日吉の広大な森の地面を見つめる不思議な人、実はコケの系統分類が専門の生物学者。
- 大出敦 (法学部教授)
アカデミック・スキルズ教育のプロ。本当はボール・クロアテルが専門の仏文学者。
- 阿久澤武史 (高等学校教諭)
日吉地下壕保存の会の会長にして日吉の建築探偵・塾高の校舎をこよなく愛する国語の先生。
- 杵島正洋 (高等学校教諭)
ハレー彗星に魅惑され天文学者になるはずが、地学学者に。地形や地層や岩石のわずかな痕跡から、過去の出来事を読み取る名探偵。
- 高橋傑 (普通部教諭)
中世の荘園の専門家にして、日吉の町のすみずみまで知り尽くした日吉の百科全書。
- 縣由衣子 (教養研究センター非常勤講師)
反転学習のプロフェッショナル。ミシェル・セールの専門家。

敬称略。所属・職位は2026年1月現在

【授業の形式】春学期・火曜5限 知識と体験を自由な発想で味付けをして、熱く冷静に考察する、ユニークな授業



学生の声(過去の受講生 学部・学年は履修当時のもの)

多くの学びを得られる授業。

私は日吉学を受講したおかげで、今通っている日吉という場所の地理的性質、歴史等がわかってキャンパスにも愛着が湧くようになりました。多分野の先生方のお話を一通りに聞け、実際に自分の目で見て感じて学べる上に論文もしっかり書けるようになるので、特に1年生には受講をおすすめしたいです。

商学部1年

半年間、私は日吉と一体化した。

私は、本授業を通して日吉を「食べた」。つまり、自分の中に、日吉を取り込むことができました。見て、聞いて、歩いて、調べて、学んで…。五感を使って、日吉という場所が持つ文化、歴史、地理的特徴について知り、自分のテーマに沿って研究をしたことで、自分と日吉の境界線が曖昧になり、一体化したように感じます。この感覚を味わうことができるのは、世界でこの場所しかありません。あなたも、日吉を味わってみませんか？

法学部3年

まだ知らない日吉の一面が見られる授業。

日吉学で学ぶキャンパス周辺の歴史や自然は、どれもかけがえのない、そして大変興味深いものですが、自分たちの身近にあるものなのに、普段は見落としてしまいがちです。しかし、それを知らなくて日吉での学生生活を終わってしまうのは本当に勿体無いと感じました。せっかく日吉で学んでいるのなら、ぜひ受講して欲しいです！

法学部2年

慶應義塾でしかできない経験。

普段なかなか関わる機会のない他学年の学生や塾高生、そして日吉のプロフェッショナルともいえる教授とのフィールドワークを通じて、自分の視野が大きく広がりました。また、大学生活の中の半分を日吉キャンパスで学ぶのには意味がありました。日吉学で得た知識によって慶應義塾への愛がずっと深まるはずです！

文学部1年

ゲーム学

——— ヴィデオゲームについて学ぶ、考える ———



みなさんのなかにも平素、コンピュータゲーム、ビデオゲーム、ゲームアプリに親しんでいる人は多いでしょう。それは遊びや息抜きの時間かもしれませんが、巨視的なスケールで見ればゲームは今日、多くの産業、文化、技術分野において中心的な位置を占め、また、さまざまな問題を提起しています。たとえば桁外れのエンターテインメント市場と化した中国と日本のIP(知的財産)の関係。仮想現実技術などの高度なテクノロジーがいかに最新ゲームに応用されているか。あるいはゲーム依存が社会問題化する一方、物語の伝播媒体として、これまで本や映画が担っていた役割を今ではゲームが果たしているともいえます。ではそうした旧来のメディアとゲームとの違いはなんでしょう？ つまりゲームには学問をする余地があります。普段は遊び、消費するだけのゲームかもしれませんが、そこから一歩踏みこみ、ゲームの周辺で現在起こっていることを知り、ゲームの諸問題についてアカデミックな考察をしてみませんか？

授業の様子



慶應義塾大学 商学部 非常勤講師
ローベル, ロラン氏



ZENY株式会社代表取締役
大里雄二氏



株式会社コーエーテックモホールディングス
代表取締役会長 襟川陽一氏

授業の特長

ビデオゲームをアカデミックに考察する

ビデオゲームが提起する諸問題についてアカデミックな立場から考察をおこないます。個々のタイトルについてのゲーム批評とは異なり、学際的な立場からゲームの現状や、ゲームとはなにかを考えるためのヒントを提供します。

授業紹介

ビデオゲームが提起する諸問題について、アカデミックな立場から考察をおこないます。

ビデオゲームをめぐる多岐にわたるテーマを、産業、文化、技術といった分野の専門家とともに学びます。慶應義塾教員、他大教員に加え、ゲーム業界の最前線にいる方にも講師として登壇していただきます。講義のあとに質疑応答をおこない、履修者にはリアクションペーパーの提出が課されます。授業はすべて対面でおこない、出席とリアクションペーパーの充実度で評点をつけます。



「ゲーム学」(2025年度実施例)

- デジタルゲームに見る着せ替え人形的表現
塚文男 (尚美学園大学総合政策学部 非常勤講師)
- ゲーム産業の基本構造
小山友介 (芝浦工業大学システム理工学部 教授)
- (実践)中国巨大市場への挑戦
大里雄二 (ZENY株式会社 代表取締役COO)
- デジタルゲームの感性学
吉田寛 (東京大学文学部 教授)
- ゲーム依存について 一精神分析/精神医学の観点から
藤田博史 (医療法人ユーロクリニック 理事長・狭山メンタルクリニック 院長)
- フランスにおけるビデオゲーム
ローベル・ロラン (慶應義塾大学商学部 非常勤講師)
- CG制作の御紹介
野末武志 (株式会社スクウェア・エニックス 執行役員)
- 社会課題解決・コミュニケーション技法としてのシリアスゲーム活用
標葉靖子 (実践女子大学人間社会学部 教授)
- ゲームをフェミニズムする、クィアする
近藤銀河 (東京芸術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻 博士課程)
- ゲームとヒューマンエージェントインタラクション
大澤博隆 (慶應義塾大学理工学部 准教授)
- ゲームと文学 一テキスト、仮想現実、身体性
新島進 (慶應義塾大学経済学部 教授)
- コミュニケーションを拡張する
インターネット技術とバーチャルエコノミーの拡大
大隈隆史 (産業技術総合研究所人間拡張研究センター 総括研究主幹)

2026年度 コーディネーター
新島 進 (慶應義塾大学 経済学部 教授)
敬称略。所属・職位は2025年度講義時点

学生の声(2022・2023年度受講生)

ゲームを取り巻く様々な環境を、理解することができました。

私はゲーム学という学問自体あまり知らず、ゲームについての興味本意で履修したため、当初は優秀なゲームを鑑賞する授業だと考えていました。しかし履修してみると、ビデオゲーム自体ではなく、ゲームを取り巻く環境に関する授業でした。製作者側のお話はもちろん、中国やフランスなどの海外のゲーム市場、新しいゲーム形式やゲームに取り入れられる新しい技術、逆にゲーム手法を新しい技術に取り入れる事例など、ゲーム自体に対する知識(制作過程、面白くするコツなど)、よりゲームを取り巻く環境を色々知ることができたと思います。また、講義にいらっしゃる講師の方々が多様な領域で活躍しているというもあり、ビデオゲームに限らず世界は自分が思っていたより広く、さまざまなことに取り組んでいる人がいるということをつかきかけにもなりました。この授業を履修するにあたって、メジャーな企業やタイトルを押さえておく程度のゲームに対する理解があった方が授業内の事例を直感的に感じることができるので、オタク文化を空気として理解しているほうが好ましいとは思いますが、無くても特に問題はないと思います。本当に楽しい授業なのでぜひ皆さん履修してみてください。

環境情報学部3年

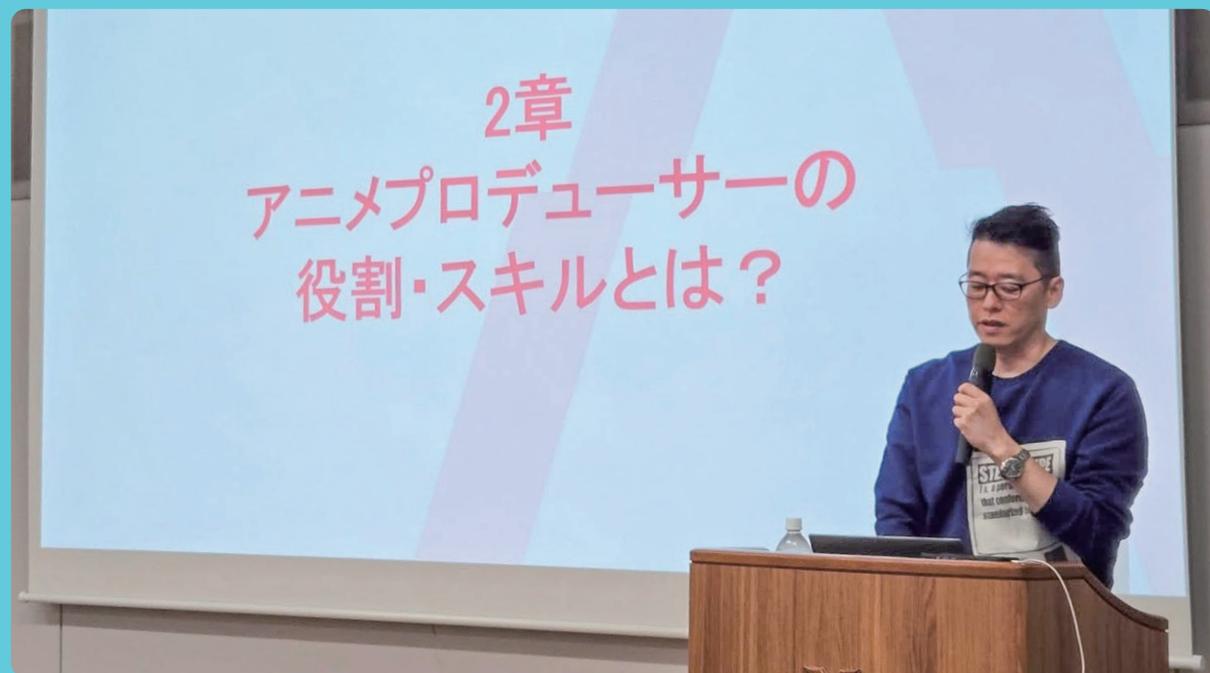
ゲームに対する造詣を深めるだけでなく、商業展開や他国との繋がりを実感しました。

ゲーム学の講義では、単にゲームそれ自体に対する造詣を深めるだけでなく、ゲームを軸として商業展開や他国、特に中国との繋がりを実感しました。国によってゲームに何を求めるのか、国ごとの文化の特性も分かり、今後、ゲームに関わる仕事をしたいと思っていなくても、ゲームを作る国自体に興味を持つことができると感じました。また、ゲームの進化の過程で、AIや脳波を組み合わせて、一口にゲームと言っても、私たちが日常的に遊ぶものだけでなく、医療やスポーツとしても成立していった、または、していく過程を学ぶことができます。授業内においては、単純に講義を聞くだけでなく、脳波とゲームを組み合わせた回では、希望者は装置を使って、自身の脳波を測定し、ストレス、喜びなど様々な項目を調べることができました。日吉キャンパスの先生以外にも、三田や湘南藤沢、他大学の先生や、様々な分野に精通している方々の話を聞けるのもこの講義の魅力だと思います。

経済学部1年

エンターテインメントビジネス論

——— 日本アニメの次の10年を展望する ———



平澤直氏(アーチ株式会社代表取締役・創業者)

アニメやゲームを始めとしたエンターテインメントビジネスは、法学・経済学・商学・社会学・人類学・文学・理工学等多くの学問を横断する学際的分野です。エンターテインメントビジネスを大学で勉強したいという学生のニーズは高く、また実際に数多くの慶應義塾OBがエンターテインメントビジネスの分野で活躍しています。本講座では、現代日本のエンターテインメントビジネスの中でも中心的な存在であるアニメビジネスに特に焦点を当て、そのクリエイション、プロデュース、テクノロジー、ファイナンス、国際化等の現状と展望を深掘りすることで、日本アニメの「次の10年」を展望します。



左から 谷口悟朗氏(アニメーション監督)、竹内文恵氏(アスミック・エース)、2025年度実験授業「エンターテインメントビジネス特論」ポスター

授業の特長

理論と実務を往復しながら授業が展開されます

アニメビジネス関連分野の第一線の研究者による講義のみならず、アニメビジネスの最前線で活躍する実務家によるゲスト講義も数多く行われます。授業は理論と実務を往復しながら展開されるため、アニメビジネスについて、理論的・批判的な思考を身に付けるにとどまらず、具体的な実務の現場でそれがどのように展開しているかといった「地に足の着いた」観点を身に付けることもできます。

授業紹介

アニメビジネスについて、理論と実務の双方から学際的かつ国境横断的にアプローチします。

日本のアニメビジネスは現在、グローバルな配信サービスの定着による海外流通の伸長、海外資金の流入、アジア地域におけるアニメ産業の勃興等によって20年に一度の転換期を迎えていると言われています。他方で、実際にアニメビジネスを遂行する際には、数多くの関係者のそれぞれに異なる意向や利害の対立(変化する事業環境Vs変わらない制作手法/冷静なビジネス判断Vs創作の情熱/マーケットのロジックVsクリエイションのロジック/日本のアニメのつくり方Vs海外のアニメのつくり方etc.)をどのように調整するかという問題が実務上の大きな論点であることも指摘されています。

本講座では、このような背景を念頭に置きつつ、研究者と実務家双方による理論と実務を往復した授業を通じてアニメビジネスに関するクリエイション、プロデュース、テクノロジー、ファイナンス、国際化等の現状と展望を深掘りすることで、日本アニメの「次の10年」をどのように展望できるかを考えます。

実施例: 2025年度実験授業「エンターテインメントビジネス特論」(全7回)

授業タイトル
■ 第1回 アーチ株式会社代表取締役・創業者 平澤直氏特別講演(総論)
■ 第2回 アーチ株式会社代表取締役・創業者 平澤直氏特別講演(各論)
■ 第3回 文化媒介者としてのアニメプロデューサー:三原龍太郎(経済学部准教授)
■ 第4回 アニメビジネス実務家ゲスト講義①:谷口悟朗氏(アニメーション監督)
■ 第5回 アニメビジネス実務家ゲスト講義②:竹内文恵氏(アスミック・エース)
■ 第6回 アニメビジネス実務家ゲスト講義③:小形尚弘氏(バンダイナムコフィルムワークス)
■ 第7回 総合討論

敬称略。所属・職位は2026年1月現在

学生の声(2025年度実験授業「エンターテインメントビジネス特論」受講生)

アニメビジネスの最前線を知って、ぜひ自分なりの考えや関わり方を見出してみてください。

アニメに興味はあるけれど、学問として、また仕事としてどんなものなのか想像がつかず、足を踏み入れにくい。そんな悩みを解決してくれるのが、この講義です。また、初学者の入り口としてだけでなく、アニメビジネスと学問の接点としても、とても先進的で他にない時間を提供してくれます。アニメビジネスを取り巻くさまざまな実務家の視点、そしてそれを探究する研究者の視点の双方からお話を伺えることは、業界理解はもちろんのこと、どんな意見や課題があるのかを当事者視点から浮き彫りにし、学問がどう貢献できるかを考えるうえで非常に貴重な機会です。講演や対談で提供される散らばった点を、どう結び付け、どのような体系的な理解を得るかは、まさに無限の可能性が広がります。アニメビジネスの最前線を知って、ぜひ自分なりの考えや関わり方を見出してみてください。

経済学部3年

学生より、消費者より、ビジネスマンより一歩先へ。

この講義は、さまざまな専門分野の学生に向けて、アニメビジネスを理解するための「入口」を複数の視点から開いてくれます。第一線で活躍する実務家ゲストの経験共有と、専門研究者による分析・解説が並走することで、業界の歴史を立体的に捉えながら、未来の展望まで見渡せる学びが得られます。授業内容も、制作から流通まで非常に幅広く、登壇するゲストの多様さは受講前の想像を遥かに超えます。学術・ビジネス・創作・技術の側面を横断してアニメ産業を解説する授業は、他の学校ではなかなか得られない、ここならではの学習体験だと感じました。この講義を通じて、アニメ業界そのものを知るだけでなく、業界が扱う「製品(コンテンツ)」を知り、そして業界で働いている「人」を知ることができます。日常的に広く消費されているアニメを、一つの視点(立場)にとどまらず、より多角的に理解できるようになれる点こそ、この講義の魅力だと考えます。

経済学部3年

金融リテラシー入門



お金のことを学んでみませんか。人間万事金の世の中。明治の初めの歌舞伎のタイトルです。福澤諭吉先生が慶應義塾を学校として軌道に乗せようと奮闘していた頃、世の中ではそんな芝居が流行っていました。福澤先生の学問もメインは経済学だったと言えます。国家も組織も家族も個人も、それぞれの財布を十全に使えなければならない。一身が独立するとはお金の心配がなくなってこそなのだ。福澤先生は口を酸っぱくして塾生に教えていたのです。それから百何十年。世界は万事、ますます金の世の中！ お金のことを知らねばなりません。大学でもっと教えなくては！ その道のエキスパートに習おう。お待ちしております！



授業の特長

多彩な金融分野を専門とした講師によって、人生設計に必要な不可欠な金融リテラシー向上のための講義が行われます。

金融商品・トラブル、資産形成といった具体的な役立つ知識のほか、その社会的背景をも学ぶことができます。「職業・企業選択」「資産形成・資産運用の知識」「金融トラブル回避」など、それぞれ専門家が登壇します。金融商品や資産運用に必要な知識を身に着けるだけでなく、その社会的背景を学び、日々複雑化する経済社会を理解することで、人生を主体的に取り組む姿勢を学びます。

授業紹介

「人生100年時代」の到来に備え、多様な人生設計に資する金融リテラシー向上をめざします。

個人を取り巻く環境やこれからの生き方は、従来の「勉強・就職・老後」という人生のかたちは過去のものとなり、学び直しや、転職など、様々な選択肢が生じています。それに伴い、人生設計はますます多様性を増しています。とはいえ、「先立つものはお金」という世の中の基本は変わっていません。金融資本主義のひたすら徹底してゆくこの時代において、この言葉の有効性は、ますます高まっていくでしょう。堅実に働いても予期せぬ危機に見舞われることもありますし、投資を試みるとなればリスクの度合いも上がります。そういうことを早めに心得ておく。そのための授業です。

2025年度「金融リテラシー入門」実施例

コーディネーター

片山 杜秀
教養研究センター所長
法学部 教授

寺沢 和洋
教養研究センター副所長
医学部 助教

小林 健一
2026年度 教養研究センター
非常勤講師
株式会社小林経済研究所
代表取締役

授業内容

■ 第1回	20歳の現状把握、学生の立ち位置、金融リテラシーの本質。本講座の取説
■ 第2回	財務諸表の読み方、業種による色、企業研究へのヒント
■ 第3回	金融・経済・市況・世界情勢・新聞の読み方
■ 第4回	税金(所得税・相続税・贈与税)、確定申告
■ 第5回	マネープランの基礎と金融資産についての概況
■ 第6回	株式(市場)全般について
■ 第7回	現物資産について(不動産、他)
■ 第8回	不動産登記簿謄本(登記)の読み解き方
■ 第9回	生保・損保(社会・介護・失業保険)
■ 第10回	企業IR、組織の金融リテラシー(M&A) 模擬株主総会・企業研究(企業を深掘り)、融資・審査
■ 第11回	FPによる解説・お金の悩み・実例・解決法(各状況・各世代)
■ 第12回	トラブルと解決策
■ 第13回	副業・起業・特許
■ 第14回	全体の総括、ディスカッション

敬称略。所属、職位は2025年度講義時点

学生の声(2025年度受講生)

“将来の安心”をつくる最初の一步。

この授業を通して、投資や貯蓄の基礎にとどまらず、人生全体を見渡す視点を得る事が出来ました。働き方が多様化し、転職や学び直し当たり前になる時代では、将来に向けたお金の備え方もこれまでの常識だけでは不十分だと感じます。老後資金やキャリアの変化といった自分自身にも関わりのあるテーマは「いつか考えること」ではなく「今から知っておくべきこと」なのだと感じました。知識があるだけで選択肢が広がり、不安が小さくなる感覚を初めて味わった気がします。将来の安心はただ待っていて得られるものではなく、早い段階で学び、考えることで築かれるものだと思えた授業でした。将来に向けて「どのように学び、働き、生きるか」を考え始める段階の大学生にとって、確かな土台を与えてくれる授業だと感じました。

法学部1年

お金と人生の基礎を学び、考える時間。

株、保険、投資、何となくのイメージや人生における必要性は認識しているけれど、それぞれの違いが分からない。具体的に何をしたら良いの分からない。そのような疑問の答えを探るのが、金融リテラシー入門です。世の中には「株式投資のコツ」「賢い保険の選び方」等の情報があふれていますが、本講座では小手先のテクニックではなく、各分野の基本となる考え方や構造を学ぶことができます。一般的な入門書との違いは、疑問点をその場で専門家の講師の先生に質問できること、要所所でテーマに関するワークが行われることだと思います。このワークは必ずしも発展的ではありませんが、お金と関わる上で必要不可欠な頭の使い方を学び、鍛えることができるでしょう。

理工学部1年

Information

● 庄内セミナー 『庄内に学ぶ「生命」』 <https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/shonai/>



慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス(TTCK)がある山形県鶴岡市を拠点にして開催している、生命をテーマにした教養セミナーです。対話と議論を中心に据えつつ、専門家や地元の方々のお話と体験・体感型プログラムを組み合わせた4日間、自然豊かな庄内の地で学部生・大学院生等と一緒に精一杯「生命」について考え、語り、体感します。修験体験、先端生命科学研究所ラボ見学、論語の素読体験など、過去・現在・未来が体の中を突き抜ける「学び」の場に立ち会ってください。(実施方法につきましては慎重に検討し、周知いたします。)

● 情報の教養学 2025年度講演 <https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/education/information/>



情報に関わる技術は年々進化しています。しかし、それが世間一般に広く浸透するためには、何らかのきっかけが必要になることが多いです。例えば、新型コロナウイルス感染症がきっかけで、オンライン会議システムが広く使われるようになりました。「情報」は技術だけではなく、様々な事柄が相互作用し、その成否につながります。また、本来良いと思われることであっても、利用者の使いかた次第では悪い結果になりかねません。このようなことを理解するために、2026年度の「情報の教養学」は、情報に関わる様々な話題を一流の講師に講演いただきます。

● 学習相談

アカデミック・スキルの修了生を中心とした学生相談員が、学習に関するさまざまな相談を受け付けています。お気軽にどうぞ！
 期間：学期中の平日(Webサイト参照)
 場所：日吉図書館1Fスタディサポート
https://libguides.lib.keio.ac.jp/hys_studyadvice



学習相談の様子



2025年度 読書会ポスター

● 読書会「晴読雨読」

学生も教員も対等に語り合う読書会を開催しています。

アイデアの系譜学
 2025年4月～2026年3月 (講師)若澤佑典(文学部准教授)

● アカデミック・スキルズ -10分講義ビデオ-

アカデミック・スキルズでは、自分で問題を発見し・調べ・発信する力を1年にわたって実践的に習得します。その心得を誰でも学べるよう、センター所員がテーマを設けて約10分語るビデオ講義を制作しました。

- 「科学史」 見上公一(理工学部准教授)
 - 「映画は読むことができるのか？」 佐藤元状(法学部教授)
 - 「サブカルチャー研究」 新島進(経済学部教授)
 - 「ロシア語について」 越野剛(文学部教授)
- その他20本以上

※詳細はポスター、web等でご確認ください。 <https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/>
 ※所属・職位は講義、イベント等開催当時のものです。

Publications

教養研究センターで行われている研究・教育・交流活動は、各種刊行物やウェブサイトにて発信しています。



● 教養研究センター選書

教養研究センター所員が独創的な論考を平易なスタイルで紹介する、個性ある魅力的なシリーズです。諸国の文学、言語、哲学、芸術表現、社会学など、様々な学部所属する所員の多様な関心を反映して、多彩なテーマで刊行されています。



『アーサー王物語』に憑かれた人々
 -19世紀英国の印刷出版文化と読者
 不破有理 2023年

文芸共和国の歩き方
 -書籍を遊歩するためのキーワード集
 若澤佑典 2024年

『悪の花』の旅
 -ボードレールを読む
 原大地 2025年

韓国の若者と徴兵制
 金柄徹 2025年

〈選書刊行記念企画〉「著書と読む教養研究センター選書」

「著書と読む教養研究センター選書」は「教養研究センター選書」をより広く知ってもらうことを目的とした企画です。

2023年度 「アーサー王物語」に憑かれた人々 - 19世紀英国の印刷出版文化と読者(不破有理) 2023年11月30日開催



● 刊行物

「生命の教養学」の授業をまとめた「生命の教養学」講義記録の他、教養研究センター監修の書籍も刊行しています。



『記憶』生命の教養学
 2022年度 講義記録



『贈与』生命の教養学
 2023年度 講義記録



『死と再生』生命の教養学
 2024年度 講義記録

● 学生論文集

「アカデミック・スキルズ」で執筆された学生論文は、2005年以降年度毎に、一冊の本にまとめられ、「アカデミック・スキルズ学生論文集」として刊行しています。



2020年度

2022年度

2023年度

2024年度

教養研究センターの科目を調べるには…

シラバスは「K-LMS(学修支援システム)」から利用できます。
keio.jp にログイン後、Application から「授業」→「K-LMS」を選択。

<https://gslbs.keio.jp/syllabus/search>



慶應義塾大学 シラバス・時間割

学部・キーワードから探す K-Numberから探す

年度

学期 すべて 春学期 秋学期

キャンパス

学部・研究科

学部・専攻

学年

科目名

担当者名

キーワード

[修士] 大学院共通
言語文化研究所
メディア・コミュニケーション研究所
斯道文庫
体育研究所
福澤研究センター
[修士] 福澤研究センター
国際センター
[修士] 国際センター
保健管理センター
教職課程センター
日本語・日本文化教育センター
アート・センター
[修士] アート・センター
外国語教育研究センター
教養研究センター
G I Cセンター
学生総合センター
グローバルリサーチインスティテュート
ミュージアム・commons

シラバス検索画面の「学部・研究科」からプルダウンで学部/研究科名よりずっと下の方にある「教養研究センター」を選択して検索！

※単位の認定は学部によって異なります。所属する学部の履修案内を確認してください。

